

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対象 4年生

本学級の児童は社会科の学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。「水はどこから」「ごみの処理と利用」の学習では、自分たちで学習問題をつくり、課題についての見通しをもって調べ、単元の終わりで学習してきたことのまとめをする、という学習の流れを身に付けてきた。また、調べる際にはインターネットを使って調べる習慣も定着してきており、自分の調べたい情報を効率よく手に入れることができるようになってきた。学習内容を自分事として捉えるとともに、自分で調べたことと友達が調べたことを比較・検討したり、関連付けたりして学習できるように意識して学習計画を立てていく。

2. 単元名 「自然災害からくらしを守る」（全8時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	①過去に発生した自然災害や、災害時の対処の様子、今後起こり得る自然災害への備えなどを基に、過去から自然災害について様々な人たちが協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対して様々な備えをしていることを理解している。 ②過去に発生した自然災害や、災害時の対処の様子、今後起こり得る自然災害への備えなどを、各種資料から調べ、情報をまとめている。
思考力、判断力、表現力等	①過去に発生した地域の自然災害の対処の様子と自然災害に対する備えを関連付けて、自然災害において関係諸機関が協力して人々の安全を守る取組を行っていることについて文章などで表現したり、根拠を示して話し合ったりしている。 ②学習したことを基に地域で起こりうる災害を想定し、日頃からの備えをするなど、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりしようとしている。
学びに向かう力、人間性等	①過去における自然災害の発生や自然災害から人々を守る活動に関心をもち、予想を基に学習計画を立て、問題解決の見通しをもって主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。 ②過去の自然災害や、人々の安全を守る取組について学んだことを基に、地域社会の一員として、地域の人々を守る取組や、関係機関や地域の人々に協力しようとしている。

4. 本時の目標

水害からくらしを守るために、どのような対策が必要か考える活動を通して、単元の学習問題をつくる。

5. 授業展開【本時・単元】

<b>解決したい課題や問い</b>
水害からくらしを守るために、だれが、どのようなことをしているのだろうか。

<b>考えるための材料</b>			
過去の自然災害 ・地震災害 ・津波災害 ・風水害 ・火山災害 ・東海地震	国・県・町（公助） ・備蓄倉庫 ・防災地図 ・地域防災訓練 ・防災メール自衛隊	学校・地域（共助） ・避難訓練 ・年間計画安全点検表 ・備蓄倉庫 ・消防団	家庭（自助） ・非常用持ち出し袋 ・家具の固定 ・避難場所の確認
想定される活動			
・静岡県内で過去に起きた水害の様子から、災害が起ると人々のくらしにどのような影響が出るのか予想する。 ・予想される被害を基に、人々のくらしを守るためにどのような対策が必要か考える。 ・考えた対策を、「自分たちにできること」と「できないこと」に分類する過程で、「できないこと」はだれが、どのようにして行っているのかという単元の学習問題をつくる。			

### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

○全体で水害が起こるとどのようなことが起きるのか予想する。（5分）→個人で予想される被害から、人々のくらしを守るためにどのような対策が必要か考える。（10分）→グループで考えた対策は、自分たちでできるかどうかを話し合いながら分類する。（10分）→全体で単元の学習問題をつくる。（5分）

- ・橋が流されているから、だれかがその橋を修理しなければならない。
- ・建物がたくさん壊されているから、もっと頑丈な建物にするといい。
- ・道路が水であふれているから、ていぼうをつくって川が氾濫しないようにすればよい。
- ・家に取り残されている人もいるから、救助する必要もある。

### 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・水害（災害）が起こると、とても困るし、こわい。
- ・自分たちの住んでいる地域でも起こるかもしれないから、きちんとした対策が必要だ。
- ・自分たちにできる対策もあるけど、できない対策はだれがやっているのだろうか。
- ・きっと大きな工事とかお金がたくさんかかることは、国がやってくれている。